



特別  
~12  
1077  
25





利  
1077  
2475



1077  
25

胡蝶

廿六歲

太政大臣

三月廿余日去ノ御所私事

中文清方女房系私也

其夜於春御所有以遊事

兵部卿文親善柳給事

西對姫君人ノ通信事

兵部卿宮持以藤花給事

中宮太子御讀經事

春御方供花事 蝶鳥舞童事  
 第上被奉消息於中宮事  
 日月今通啓書於西對姫君事  
 兵部卿 右左衛門 頼昌大納言中納言  
 拍子乞之  
 源氏君与 玉鬘芳君拍浪事  
 源氏君与 玉鬘芳君拍浪事  
 源氏君与 玉鬘芳君拍浪事  
 源氏君与 玉鬘芳君拍浪事

胡蝶

玉鬘芳 並二花以詞并歌鳥卷名  
 秋好中宮寄也  
 可卷名こてふよとさるにれま  
 心何りくハ幸山吹とへてさり  
 ちは  
 素花御案上寄し女  
 花園に蝶とさるや下等事  
 秋まらむしはうとくさるん  
 秋胡蝶のハ蝶也分り何り胡蝶と

所々々系綱あり

中初為卷同年より但是ハ三月  
四月のウラウチウチ又是れ並  
玉之玉ウラウチ並是のウチハ  
源氏亦ハ三月より夏まで抄云  
るハこの目一幸し

屋ノミ乃廿日何事あり此はがひ

ほのりい

<sup>松</sup>新造乃壺造のあまきんや 因日

かうれきやもはまこゆりあやと

<sup>養</sup>介れ里あくいまこちやうふや

とあうやとらこひさのりおふ

らやうりのうくあくと打定めあ

やで去れえとこあゆみあ御あ

<sup>并</sup>まれば介ふハウツあつまい

ゆりあつとハいまこちやうふ



岡池のほとりどりてみまがし  
くゆしきおのよや

うめいゝみよはくつぼ

新以鷓首幸や又摸唐船之鷓与

日

箋一本うめいゝみよトアリ如浦

ヤトし

いそひさうそせりて

船の装束しやうこのおかひ情そこのけ花

傍まかとし

お海しうめいゝ

秘舟のよし

ういづさこれんりて

何稚王寮人し

中交ばいふ海 秘秋好し

うれまきうれそのはとしをまうきこし

おありしゆりそ

し女巻小秋好中宮のゆきあし

武抄  
舟巻ハ  
し女巻ハ  
をゆ民可  
は巻サハ  
ヤトアリ

なりは明子  
のりあり  
一年若ねこ  
お遠くとも  
あつとま  
あな井  
たは  
あつとま

長ころの園はるるやとれお筆紙凡の  
はてよふりみよ 秘花ニアリ  
これはやおかーおとる君と  
秘 ころはやおまとのぬく秘おとる  
源のぬく

ふふふひとる

井 昔れ申文おとる日一院のころな  
とよてしもあやまきとるは  
ぬかあり

秘

日六桑院の中ふ今申文は  
させしとるあつとるはは後御  
何のハ無便とる昔れ申文な  
ハやうよ同院れ申てしもあ  
とるハとるはぬかぬか  
きてとるとるあつとる  
われ女房をられおめとる  
ぬかぬか  
秘 申文もははは星よおとる



家く〜〜根ふまはれく  
と〜〜とせあ〜れ  
事小女房〜らと〜ふの按  
好く南のお〜の西ちれ地〜  
お〜〜お〜

中文の女房〜ら〜  
松日 因中〜

の女房と母よのせてはあれ〜  
み〜お〜

こま〜れ地〜のこ〜〜と〜

<sup>秘</sup>ひは〜〜の町と南れお〜

トノ何〜ひ〜り〜

ら〜〜〜てれ〜

<sup>秘</sup>中鴻何〜く〜

〜〜たり〜り〜

〜〜〜れ〜

ほり〜

昇亭〜

<sup>美</sup>松実世云〜

あしありは物後十レ一

こゝろこれよりさき人々

秘 兼 紫上るこれ人々

秘 紫上るこの女房衆より目録

のりて後よし

龍以鷓首と

秘 夫よ唐めいふみといふは

新なりしより水成をよきより

その鷓首風と受てし物地な

まいば

兼

たうしうしうしうしうし

され入りて私のませみ

新以鷓首よ女もとらと

白日よる人々

しや

私云毎日のりありし二交り

是はたうしうしうし

かゝくしあり後乃交ハ中

の季乃御瀆經よはあより代え

ありし事し

<sup>美</sup>龍頭鷓首 鷓 立歴切ス乍鷓又乍艦

淮南子龍舟鷓首存吹以唐云高誘注

鷓大鳥也畫其象著船首以御水患

西都賦登龍舟張鳳蓋注曰畫龍於舟

也文選 浮鷓舟

普王儂為益別刺史謀代吳造戰舟艦

畫鷓快歎於船首懼江神

鷓鳥雄鳴上風雌下風則名艦江東人

船前畫青鷓因名

うらとりさかさとくくみかふら

いひりあうせて

<sup>美</sup>かろ子のやうふおこせふれし

まこいんを四

舟も唐めさし衣裳とくくあふ

うり又は他の中へこまおふりも

うしめふれはさるあまのやうと

とくくきり

かうーぬれ入りのきり

みきり  
くち柳

団柳を元カ

性先動地を

佐文水電用

希すのち

かういハきりこハみ極と

上れ河よハ介乃里よハまきさきぬ  
よやとうちみハけ後の中ハありて  
介とこぬ人の初こハこれハ介

らりまこぬ人のまきけぬあれ

花ハまきこさうりありたりとハ

秘 花鳥の美是も面白く妙く

昇 介乃らりあ人の奇れ公下ハあり

解りよぬれぬるのまき

何 白氏文集 秦中吟 後扁紫藤架

突砌石薬欄 築寺枝摘櫻桃

帯花移牡丹

よれなるの何やにらん

會々

柳す氣力條先動他有波文水

後 戸用

此れ西よ何や吹きいふ去風や

此の少とあさハとくらん

徑路

山のこもりとあててきせん

ありしきいしはつひい浪

の何やよとれ文よりませ

ふりやいふあむなる

とれく之やいふいふ

い六条院のび時れ系執るや

あ

いふいふいふい

百歩いふいふいふい

いふいふいふいふい

いふいふいふいふい

いふいふいふいふい



秘 たとれくこの奇し

奇に因り他名はさうして浦も

かー

河 波の花おさくしき流てちりく

りりりりれまといは月やあるらん

山少さこのさ流一流云をの國云

或云那岩取く宇治よ山吹の瀬を

り國取れ 日記 蜻蛉日記云り右よ

まりりてくろとしていへ山吹の



さ流おといふ取とちやとて河

の中りりこまいぢ

奇 山吹のささい名取く宇治をいれ

おれ奇未見し

秘 出ぬいけおよハ奇あしうして

是れ池やわての川をいりあらん

この山吹りあをふあし

并よハ山吹の名有あれハ云々  
かめてソナリ

ウめれうノ山と云ふヨリ母れ中ノ  
充とぬ名とハ云々ハノ云々人

<sup>何</sup>蓬萊山負鼈背也

白氏文集不見蓬萊不敢歸童男  
童女舟中老

<sup>秘</sup>文集の句成川云々此心ハ不老不死の

五

十

菜ハけ六条院ノ何列ノ不見蓬萊  
成ト云

<sup>美</sup>私勤 蓬萊事鼈背ノ云々

列子ヨリ云々たり

列子第立湯同篇曰湯又同物云巨  
細乎有脩短乎有同異乎夏草曰  
潮海之東不知幾億万里有大崑崙  
實惟每處之各其下每處名曰版墀  
八統九野之天漢之流莫不注之而





何 秘

桃源記 圖日

續齊諧記曰漢明帝永平十五年  
剡縣有劉晨浣斲二人共入天台山  
採<sup>藥</sup>迷道路糧盡山乃有一樹樹共取  
食之如覺少健下山得洞水飲之飲之  
並各澤洗行一里又度一山溪見二女顏  
容妙絕使喚劉阮姓名如有旧交歡  
悅因同郎等未何晚也因邀過家廳都  
無男兒又有數仙女客至女家云未

慶女婿各出樂器歌調列院就所邊  
女宿言語切養行夫婦之道住十五日  
求還女曰今未至此客福所招与仙女  
交會流俗何可不樂乎遂住半年天  
氣恒如二三月未去切女曰眾根不減使  
君未如此共送列阮還家互相識鄉里  
恠異乃驗七世子孫也  
劉晨浣斲天台山一菜と採し行  
拙り取り食く一里中行り仙女

逢平年夫婦十成テ旧里ニ帰シハ七  
世ノ孫ニ逢云シ

私云け六条院のけりさぬ人るハ  
此よりまゝ一三ノ所ありれハ只仙文  
のしゝとがめてし之み

けりしとみぞ

皇慶章 平調拍子 各十遊声一估  
序一估拍子十毎舞遊声序共断  
々破三估拍子各十才八才九与估合

舞九估ノ才九估打三度拍子急拍  
子女可彈十一及南宮譜云昔善傳  
此曲者大長原常朝后物師安曇  
孫經等

秘 平調の樂也

此三才  
私云は平調式用ある。時の調子  
何れ不変ト似たり 平調式  
根本とソハ合れ音秋ノ流然平  
調ノ律呂おとてゆりし世よ

らとさ中とゆらりけお祝との  
潤子に用くまはれはさし時  
の潤子双潤ありて先平潤とあり  
味有り又十二津よ配とあり  
平潤と正月よとあり奇公何ら  
や公よと何らけり後りさ  
らせりて

<sup>秘</sup>日とるやらり祝ふ公よと何ら  
とせり

同 妙とお存さるる

あれつらひいとさうさ

<sup>秘</sup>えれつり後いさ路に在殿とそ  
せさる禱せ

れとれとれ人とも

は葉上の人くくえ又与方と  
えれとこまいませとあり  
海よにさし  
<sup>何右</sup>こころは柳櫻成こま  
せて  
初うまれりさ威も

花

錦上鋪花とよみ流り海へ  
色く川へくくくくくくくくくく  
こくくくくくくくくくくくくく  
く輝活よりらりりらあのかみせ

舞人

美 秘めけ 声ヒナツサス

おまゝの庭

秘 堂上よくと舞成ともふく

あゝあゝあゝ

秘

おれ師舞人

なうてりう少成あて

秘 離反調 去れ去くふれく

美 私云双調ハ呂ヤ本音之ヨシ去れ調

上ハ平調子リ波ナリ時れ調子と  
吹とてあふく

うーうーあちとらゆとふれ

堂上よハ絃と本よまろくこくハ  
絃の想名へ他管ともく



そらうおやうしとくんとや

くりし之小鼓去来

<sup>何</sup>反音八律也 喜春樂 董鐘洞

<sup>何</sup>序拍子 三 夜拍子 古 或本双洞

拍子 中曲古樂

<sup>何</sup>久し之ハ呂より律よりは呂より

去来ハ董鐘洞の去来や平洞を

こころして用ゑるやあるへ

<sup>何</sup>去来去来も呂より律より

小なりしや 呂律ハ才去の

所ハハ双洞と何り律もや

<sup>何</sup>私云弁ノ義誤しリ去来去来ハ董鐘洞

よりし之ハ律小なり去来ハ董

鐘洞律呂

<sup>何</sup>平洞律呂

何成やさいおり之

<sup>何</sup>何とやさい成く系ふりてとけ

や常のよげや常のぬふといふ

とげや梅のくれさるや

青柳柳子十三催馬樂津長生樂序

美ニアリ秘ニトシ

安名尊ハ呂の奇く青柳ハ津の奇く  
さて呂の奇の安名と津の青柳  
よりほしとくまふ

秘津の奇く

たりくしおりの流くくひはは  
しれおくと

私くくありしうみはれはれ

しれおくと

中文ハ地つてては

よれ智ナク

去れゆくしとゆきりおる

りくと去のえはくは

何衆人嬉如登去其皇

花藏去困或花去鶴

美常信温和の何くはり花去端





まゝ此の中にてまゝくく一様  
ゆゑにありしやうふんせいのれと  
そのゆゑにふくみくらしに  
しるりにみゆふもかぬぬく  
そのあふをくくあや  
<sup>秘</sup> 乾く河り  
り身さかたりと

人教まぬ人まゝの中くまひ  
うぬく海乃まも地をく流る

人あぬいしとくくあひ

えいし地まぬ中れまひよ

<sup>何</sup> まれまれ中のまの河りあ

しらちまふとれくくく河り

<sup>秘</sup> 學園つうき位とくくくくく

くくくくくくくくくく

人あひとく

とれつ然くくくくくくの中ね  
<sup>英</sup> 拍本の中ねくくくくくく

あつぬく

<sup>秘</sup> 実ハ兄才のり物をよこ中ねる  
物本

いふぬくあり

私色ぬくありんときぬる  
ありんときぬる事れ三

兵り文

<sup>秘</sup> 堂音り文

いふぬくありんときぬる

二条院の太政大臣乃此のり

室あ巻しよんぬる

弘徽及太后 時文方堂音り定

後仕大臣室 日ノ若 丸若勝月東

尚侍 六ノ若しり

うけいりてしハ者しきほぬる

兵り文玉うると我物しり

さぬくしきりりてしハ地

なみ松の心

きさしむしめりしきさしむしめりしき

元 元 元 元 元 元 元 元 元 元

私身墨ノ心しめり

あしひさしめり

何 早連也

元 さしむしめりしきさしむしめりしき

身 身 身 身 身 身 身 身 身 身

身 身 身 身 身 身 身 身 身 身

連心しきこの義れ

身 身 身 身 身 身 身 身 身 身

いれりしきこ

秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘

イサナル心しけの心しけ

たしむしめりしきさしむしめりしき

玉髻方巻に玉髻方巻の事しき

おろりしきしきしきしきしきしき

身 身 身 身 身 身 身 身 身 身

このまじく〜後公〜ありや  
れと何あり〜事し  
<sup>秘</sup>いまうたの中よりそのかみ等  
いなるま〜うたハ連して作何あり  
事し

あふたゆ〜きは

兵部卿これ河ぶらう〜此事〜成〜とあ

あふた

<sup>音</sup>ひ〜うたの極〜よ公卿〜あるれん

ゆらに男あま〜人花やハあ〜あま

ひ〜うたの一〜とゆ〜よす〜

あ〜は〜れ〜何〜れ〜し〜ん〜う〜

<sup>花</sup>あ〜う〜卿〜文〜ハ〜滅〜り〜漢〜氏〜の〜要〜女〜と

あ〜は〜る〜ま〜の〜ゆ〜と〜ハ〜あ〜し〜

あ〜め〜い〜よ〜何〜さ〜ま〜ハ〜ゆ〜り〜れ〜あ〜

う〜こ〜ま〜ハ〜し〜ゆ〜し〜あ〜り〜り〜

な〜ま〜ん〜ハ〜あ〜花〜と〜意〜の〜倒〜よ〜

〜〜あ〜し〜 齊倒よ〜花よ〜

秘

夜と闇よそりなると後撰よ  
し出さるうこひをそとぬこの  
うらさうら云いけ物成よハあまこ  
美 袂衣ふと云い義花鳥洋也

お竹

うらうらと云い

何後

うらやと云いぬの心うらなま  
たあうらうらと云いせハせあ  
美 ぬと人の五田乃山よ入より  
お竹 うらうらと云いぬの心うらなま

し一葉昔の柳ハ連枝よわたりません

お竹 うらうらと云いぬの心うらなま

秘

友の花のうらや 弁 花鳥

美

お竹 うらうらと云いぬの心うらなま

何うと云いぬの心うらなま

お竹 うらうらと云いぬの心うらなま

美 子

うらうらと云いぬの心うらなま

河より

等 松云け河河海ニモアリ流流下物  
吾表紙本は河ナシ

松美めは赤点の下め申事

<sup>在河</sup> 少らよ力とあけけくーやここれ云ハ

花の河よりとあちさうてこよ

<sup>松</sup> け邊越えさうてこよとこよ

源のゆりー流ハ河也

或 流況其少らよ身とさくこい也

りらく花の河よりとささうて

こ流一必うの心さ一のさうハ

河んれとらこ流也

きらにとら

無切也

えあら河くれ流りく 河磯

きされ河河うひ

私云け候申す私お流めさ  
毎り日の花れ事とあけこ

以上ハ別お詔  
今日ハ京上より名蝶子さきりきき  
なりとさゆして水漬師の礼へは  
好よしとて也

字ハ中ノ文の礼とさきりぬる  
なりきり

可  
廿朔月令二月云く國史云天平十七  
年九月平城中央宮清僧六百八令

讀大般若經足盤觸元 續日本記 亦七

季清讀師六春秋日裏七大般若  
講讀をらりて川草として傳り業

とひらぶや中交をなすは日

并  
六條院にて行りし為有例

秘  
三月へ延りつる一二月は河

事之定てる例ハ大般若とて

とて

美  
私部年中行事秘抄



季御讀經四十一日二月或三月日時僧在  
定木兼日夜仍宿進例又副天台  
與福寺四之義夾名并寺之輪轉文十  
秋不進之

諸院佛讀經事七日才二日有門茶  
才三日有以淨義云々  
根元抄云季以讀經二月八月於禁  
中之講之曰今日之儀之才二日之案  
とて僧之才之成賜之一之り之天子之允

私勅しけり不見り  
年之月之八日始之貞觀之の之以之り之毎之季  
子之以之り之ハ之ま之き之り之く之や之云之

以次才云

季御讀經事

春秋二季請百僧於南殿讀大般若經其  
内定佛所僧廿眠お佛殿讀仁王經納言王  
淺名一人著南殿行事自余皆儀中殿  
貞觀之時之毎之季之行之く之元慶之天皇之淺之神  
後二季之儀之く

上卿春作著陳作并令臨陽察勘中  
日時發願日時結願日時

又并令進例文硯史二人進

例文置上口前入年僧名長法寺解文  
外任并死去僧名上押紙書今年一請  
定僧名

硯置系後方加入續身并續級并板等

上卿披田文令系淺書大并書若  
元者他系淺或令并官書例

惣百人

僧百僧外 大威儀師百中 威徒名一人

三會已講

諸寺

東大寺 興福寺各八人中上四人軸請  
下四人輪轉以才各一人

元興寺 大安寺已上各一人性年八次才各二人

茶師寺 西大寺已上各一人次才一人

法隆寺一人 東寺 西寺已上各一人次才一人

延曆寺八人如東大寺  
次才一人 定心院一人次才一人諸寺  
次才在百僧中

梵釋寺	崇福寺	天王寺	常住寺
貞觀寺	喜祥寺	極樂寺	元慶寺
法琳寺	仁和寺	四成寺	醍醐寺
廣隆寺	法性寺	雲林院	四融院
慈德寺	積善寺	四教寺	法成寺
四宗寺	法勝寺	真勝寺	<small>已上各一人但 道僧註認貞 教有出入</small>

定畢副日時勅文宮奏回 付勅上并  
若無人  
 返給下并先結定 古作宣旨給人

次給日時 古作可  
依勅中 史撤宮文古作外託

可催司堂童子由并申請奏 若及上并者  
即付并令奏

後日史書僧名奉取大臣家 藏  
行事

上心左右大并行事并 以上加紫子又  
与大夫云

季御讀誦

當日上卿以下着陳召外託向諸司具

否 蜀書堂童子南殿  
出居一次也 召并同僧參否

次奉作定申御前僧 或後無作  
定中云

作并令進例文硯 史二人進之如恒并  
豫託取見參僧堪

候由方（口）上令人  
呂僧冠（口）人已上  
令參淺書之（用大并若無者他役）僧冠  
不依例延長十三广和四

令花人若殿上并奏（入宮）返給并冠限至

上口作行事（兩令）

撞鐘（仲鐘香由讀誦時懸上）右近侍用承

安門大臣上陳差定可假南殿（納令參）

議（細言為行事者可留南殿）地下納言參本

御讀誦時雖地下人參（西）但臨時（名）此限今

次為（主上）侍（右）近次（右）南殿（黃子）

安殿（昇自立西階但右於右出自平）陳住

於右有宣旨度此（如）令假（或）有一人時（召）侍  
南殿不令假侍（亦）但（先）例（令）上（右）僧（後）南殿  
天延三年例不假延長十七年

次納言系淺各一人著南殿次僧次侶奉

近侍一人著胡床制盤入者（勢）使僧冠（從）侍二

人臺子一人（后）僧者各一人（威）侍師引（侍）前  
僧入自明（義）仙花土門（從）侍師引（自）金僧全  
僧昇西階大威侍師居（几）僧（上）諸寺（以）房  
在東西廂

座定差法用從侍師若南殿

寺可奉仕呪願道寺師（僧）冠（已）禱（威）

僧名令威誕解准由方上之上卿令奏事由

遣之或有水職僧奉仕導師之例

御導師著從傍先交拜具諸僧惣禮之

度依從儀堂童子著座圖書力先

圖書著淨衣進例不殘五侍著直湯交授去壇上

唎二儀打磬去方花僧左右各十人

散花傍居南廂堂童子昇用南階入自中

在西一衆僧行道畢不訖堂童子昇共回行花莖

納花言退次如作師領誦註東階入自南

作之隨其亂分從導師在色作之或必不時以讀經時必作三三令換先例延長八二天慶三二年寺所讀經二作之中延長具信云同以乳紙占并夫明中持來作三三次啓白

教化讀經作法之導師護座

從傍先呪願出日三礼出日

著從僧士交拜具從儀師一人居三礼南几傍

左右行香一人居呪願由圖出官人各在行香机旁

門出官人從儀師竹遠去夫外記史云代堂童子

右侍從初不足申加旁上人先須三礼聖人之後

行東西一才一以僧不約自余僧日出

官人取火蛇相隨去後序從儀師士  
出月西方著火夜半夜  
晨朔明日朔夜半夜

僧亦退下至心退下出居下為著凍餐  
七例  
不見

### 御讀經事

西宮於時云水讀經上之依作於陳定儀  
名勅日時北口書  
隨時後內苑寮進料物請奏苑  
人奏下并史催夏引茶作內苑茶及  
四位引水六位引茶耳甚一以茶多士忌之  
類苑式交給府內導師有隨在句司

北口之時撤母屋治裝束以淨物移仁安  
殿淨仁安淨帳中帳帳東西設聖僧  
座其東而少退敷僧繩座而座東  
西敷几僧座小淨淨子下限淨皆敷僧  
帳下  
府南府在端威儀師儀市居磨佛市  
間別安以導師座或車座衆僧座中淨  
座下座在座而安  
堂童子座也此南府交出居府方座  
在戶前也  
出居泰上五乃泰上信司了以  
作西乳名以香東座

有僧不立僧冠西南有僧立承香龕定  
堂童子押小柱也雙立位以人若有  
国用已位可用六位之由在乾武三  
天慶立三女立仁壽殿有木口泐漢  
經云如佛渡及山南出居南及山緣西向  
延壽廿六十四日於南殿三日有泐漢經  
花人引之季佛漢經广和七七氏  
乃有令申云却而漢經日時召漢湯  
寮——云

應和二十二二十三丁酉此日請北口僧法  
淨殿讀仁王經依天慶也十六日庚  
子大初之淨之令作忠奏卷數僧名  
天慶九六十七條時以讀經結願也僧  
數亦口之外又之威從義人作書  
令擊鐘云威從義數付史付并  
先賢右大臣次奏漢返給繼納外託  
承平元国立七九更部託六十口傳  
僧於常寧寺受佛條時泐漢經三十一日

北口分儀弘徽殿之

小野託云律讀經時打鐘半二季二  
召行事并作云此時乳若龍人作法  
司令打但雖臨時百口時若如二季  
二季時兼月門外懸鐘臨時射佛

万壽之六十東大寺塔上虫示在也  
寺家有解文云

八月八日宣旨云之間寺中淨沙僧云  
十口始自今月十一日午刻七日間於

大佛前轉讀仁王經令有夏感其  
供新口別苑黑米一斗可運送由  
下知大和國云

又始從十一日於清涼殿七日令北口備  
轉讀法苑經云

寬弘二九十九被定清涼殿臨時大般  
若律讀經事依東大寺律也

長保三年正月九日未刻從大佛身  
水漚出如行云東大寺言上者令神祇



官勅申云水佐不国者從知西方有  
言上兵革事歟海陽寮申云佐所水  
大率天下有兵賊、幸歟日月十七日  
宣旨簡寺中有智堪能僧口始從今月  
廿日巳二點六丁午間占大佛お持談大  
般若經令有冥感之、但供新月本供  
物云、  
延長二一月廿一日天皇召僧正讀如意  
輪觀音儀軌

忘和元年九月三日老翁人取籠口  
人内藏官人校書殿人共修二百ヶ寺  
誦注為息災也遠寺使賜所御牒於在  
地国々令供給也

天曆三、十三、記云佛談經結願在出  
舊高明依教言固帶弓箭支入解弓

箭以香

私已上羨、被勅人知也

やそ心とて取たりけしひ乃のゆより  
ひよりくまのくおちり

秘 能清装束の示是

秘 福抄よ何やふりり 別よ ちうぶ

よー

秘 一勤河海よソの家何や海りごあよ  
口傳何り

東と海り流る盡の衣裳よりき  
く一流よこき 神圖又説何りま

秘

東寄し何と花あり 破より  
直衣ハ宿衣ハ半寄ハ白流るひ  
東のヨソツに盡ノヨソツにニ改ル

何れよふまのりま

秘 中文乃何方へ

木よのゆりまひよ

秘 語れ志流るまよゆ

いけりまゆ何りまゆ

秘 源よひれくけ申まを 一版先

華まきぬとよ

去のうへの山をくくはれり花とて  
まわりま

<sup>秘</sup> 雲上れ方りも結花枝ま

しりてふしゆりせれとけあり

之八人

<sup>併</sup> 是安舞人しめけ付の樂二八蝶鳥

ありしハ必何の如

<sup>并</sup> 花乃ほり舞いつふとほり花執

しりくふくハ安多蝶の舞人

あり一まれ一節しりく列鳥蝶の舞

人し是ハ今乃世もゆるし

鳥よハ去河くこの花よりよ

きしてふしハうねのよん山を

<sup>ゆ</sup> 法會儀蝶鳥供花定し人如凌頻胡

蝶菩薩或先菩薩捧供花二行相分

経舞臺上到壇下授花於僧定名

二人取火舎也

金銀事

文武天皇  
聖武天皇  
九百兩

花あはれ  
こころ  
花は  
あめの  
と

い  
何醜可畏

み  
あ  
あ

は  
あ

平張  
あ

蝶鳥の舞  
あ

三行う終とやとととと略せし  
為也

おまう一よ何とま家らうと

と与方此中門乃廊と右左乃  
樂座一象一

何一も銭一なり

帷等輝塙銷一帷布一

胡座と日女紀よ何ととあり

樂人の座銭云河海抄何なり

胡座うしよ一も一象一

云一一説

何とと銭の説可也

何とととと

蝶鳥の八人也

何とととと

何の香 羨一云唐ハ天子モ香一行下

ア一リ一云一

何れ中ねりきりて

是  
くれうりくさよとくやまの事よ  
秋まつけいひうしくる家の人

秘  
をよめれ巻よ上上のりく中文  
乃舞よゆりまよりう園いりる者  
のくまを海しきこておくりし  
返りし

秘  
秋好中文ハ秋と定て約好くま  
をよめ松虫うしハけ蝶とらりく  
こりうりうりし

まうれお整の由より

中文秋好く

時白乃女房くしらと

秘  
中文の女房くしらまのりくま  
さうはりて中文よ物流しこてま

返り

秘  
時白れまにのりされ女房とも

花よりおれは

秘  
傳よりりまはる

秘

情成りやむらさきくれば満し

うらひまれうらふか海祓ふ鳥のく

くれやうた

鳥モルハモル芝モル越モル洞モルのふし鳥モルのふしモル

て花モルようくモル草モルと池モルのあり鳥モルを

うととくくくくく

河鳥モル 巡モル凌モル類モルヤ 壹モル越モル洞モル序モル拍モル子モル八モル破モル

拍モル子モル八モル急モル拍モル子モル八モル古モル玉モル中モル曲モル

辛モルおりうモル鳥モルのさえはりくモル鳥モル着モル

鳥モルれふふ河モルくあり

秘

花モル鳥モル群モル花モル二モル同モル一モル

三モルくくくくく

鳥モルのふも鳥モルのさくつありひひ

三モルくくくくく

三モルくくくくく

秘

鳥モルのふもなり

ふモルハモルくくく

秘

蝶モル字モル多モル院モル清モル時モル被モル道モルくモル也モル見モル季モル

了る元 天慶二年元

蝶ハ宇多院の時造り舞  
李了る元記より見ゆり花より山  
吹とさういふれハ蝶の童ハ山吹の  
世のより舞つるといふハ蝶の  
舞よ感して滅の蝶も山吹  
させハまひ入るとをみくるり鳥の  
舞よ他の木鳥もこれさうと  
いふは舞つてさういふ

舞入る滅の蝶も舞のりハ舞

心うりくハ鳥のよハ鳥れ舞と  
合せハさういふハ一羽蝶ハ童  
舞ハさういふさういふハ  
蝶ハ日本のよハ花鳥の多ハ  
進て滅の鳥も水鳥もこれ又ハ  
蝶の舞ハ津の蝶も花鳥ハ  
美ハれとさういふ

文のすげとさういふ



秘 中宮真也

蝶多れ童

よこしきとり河くも

接山吹の久よて月名一も

秘

志海 三十一

白細長えされは接のかきり  
あきまつきこまはかうなも

云初と歌

弁 三女のや 一物合点

秘 三あ

あし

腰差足箱品ノ半箱は適力大ね箱

足箱とくしりしとよハ腰下

んゆむじやう

秘 花

中将あふハちられかそならうて

女乃さうりくくハ蒙りきぬうとせ  
そまふ中まのりりりそなりん  
ぬさてうらむのりゆん  
井 女の装束とハ蒙りきぬうと  
なりん

所乃り 中乃りゆん

所乃ハ社子うさいぬくくハ  
まらうぬ橋乃がとえまゆひん  
社乃鳴ぬ一さしひも丁りれ

秘 所乃乃をれハ社ゆり

井 川乃 所乃乃の梅乃

こてふ 区杖好中ま ちとささりれ海心乃りて  
八字山乃さいとぬてゆりとは

おふ け ち指之 一ハ八字山乃次乃うり  
ぬ れ 上乃詞乃南れ地ハこなる

ふよりいささせ多くる銭らいきん  
山といふこのきんよみ場ふれと  
こ何りきよよりて申文のせす  
よりハハ守ふ咲と會てよりせハこ  
ハカシ多くるん

事

會つゝおん何りよやお何りて  
多くるん

秘

お何りてへて活字ハ今ハ  
う紙蝶よさるりれてかりとも

事りてんし

よく新うみお何りともこの

は

おらうとハ上廊のうく林ぬ申  
は案上るしれ中しおにうさしハ  
おのうく細りとよやうなると  
とよみある若早トれりれ  
又云彼賜答と討の人とよやうな  
らぬといひとくき

是

申文もは案上とよやうハ初の入紙

人くうれは時としていさしやうよ  
そいてこぬとく是ハ物流く人の  
初ううく

并 上篇うらの奇ふハさしとさふハ

とく

秘 筆上又申文卯とよのいふある時  
篇るさ人の謝う何んれあハ  
あなりとも一腹せぬとさふとさふ  
はう流流うまハ取流あとい物ハ

さふ屋うよハなるま物し弟う子地よ  
評ししてさ

はとやうれあ女房

秘 時るまよのりくさみ申文の四方の  
女房さちん

さふのとしくりさしハ

并 弟ううと云初ささく物流作えん  
秘 日しく弟う子地し

あーのたいり

秘

は葉よ人の踏みれ時よりむろの  
いひうりしをぞ

ありき由公りらわや河のさし  
も河の人

<sup>13</sup>は葉よと玉鬘方高の建と公さま  
よまの人とさしこめりさし  
公ありは河よりよるありあ  
さしわしよなひしとてな  
して人の心たひぬむと

よみよわんぞ見え

花  
是ハ玉鬘方君れ由公りらわとあり  
あまの視し心ほさしハウりてはく  
いふもあまのさしとさしあ公ほさし  
人よ河のいひうりし振なみよハあ  
まの又河されハなうりく人の  
ありけくさしほるさしあ河のさし  
く——いよとよ

并  
は葉よくよはしとれとほさし公り

おしよのまゝに

秘

阿きくもいふと阿く人といま  
てよのこきりしてききまのせ  
らう阿りといふよむはけは  
むはりき振るれもめは清き  
こと言ハ玉盤方れ心らわ成か  
めらうと玉うらハ心あはれや  
又阿きまとも公の奥かへらよ  
ハまやいぬんとや

ききくはらう阿りて

秘

只いらはきてうらなひく  
らうく——ぬんとや

いづこいふと

秘

誰もそげうもあぬと

きこしあふふ人

秘

玉うらと念とれ人あぬと  
おろはきくはらうきこしあふふ  
そ阿ると

柳公よ武方くへめ一紙ハ定  
めしと原のたかきん

おちりりまー紙

秘 ちりりおちりりまー紙

井 密通の心何るこころはなりよし乃

おやうりまー世や現まーし

ちりりおちりりまー紙

秘 田大居し

よめ中ねハすまーしき紙く

玉うつゝれ方うハゆへそて紙く

しも夕雲ハ実の兄弟の何ひ

らひまーしき紙く

内れおかいまのまーしき紙く

秘 拍本うまーしき紙くこれハ実の兄弟ま

ん女まもむつひまーしき紙く

このまーしき紙く

井 夕雲にまらまひまーしき紙く

そのまーしき紙くこれハ何して下り

くろくなんひりまへおかりけ家

<sup>何</sup>内大臣玉警方乃子名もまきんこ

しゝ家と玉警方まねのこりりハ

何て液の兄弟うたはまきこに

心くくお丹持くしと

<sup>元</sup>玉うりり君ハ内の大敵のまきを

我甘しんてきりり家あまれ

ときしきんじとうれさま何

りれよハ何てトハ公へ向く

方経いふてりよれハ同

しゝかろうしとまき

とさりあつとまき

<sup>事</sup>玉うりり岩り家申ねと教た家

しゝあて兄弟の公トよまき

<sup>秘</sup>花子アリ

まあやのおや

<sup>元</sup>内大臣とまき

これあし何り

<sup>元二ハ</sup>お物くハ



ふりよりしるし

秘 実の親よ遊幸し跡を記し  
とハゆきもるに源のくもをさす  
清いぬき

かよよら代もけ

秘 源成ひきよまのこまよすこ  
ふあやハかりけとれくまの

秘 夕鳥よハ能る家とハかりれまこ  
あまハいしりしめいとふあ

何文 日記 文学 日廉

これハ玉うらねきふといふ

衣久乃いまあうしう

秘 四月よありて四月天気が和又清し

予いのぬきこよ

秘 西村く玉うらこ

たしひーあしおしう

秘 玉うけのうき方より文何  
くされハ世と海のおかま

おれ

おれ

秘 玉ころれん

いさよふ

心ころれありい

くわう

兵部卿文ハ海の内陣打しひあ  
之中よそと一腔と海あるむらひ  
源もね又の方あきもつる源

ふか

て心公のみ成みあ

い

井 兵部卿文と海しすれあり方ハ

海

す

秘 兵部卿文と海しすれあり方ハ

かひく

し

行向くくのおかいら

玉ころころの心

右ちねの心とまろやふ

<sup>秘</sup>舞里とてしりやうりふん

意乃山よりハクノれまうま

<sup>何</sup>孔子何ぞ不審論説長四禁

溺大人石門荷簣侯封人楚狂接

孔子と阿さりりりりりりりり

へ或又孔子東荆山の下に遊て三

人の小兒何りてて去成揃て城を

作り孔子曰車道とま一り力過と

孔子小児の吾国聖人の上天余と

知り下人情と笑れ後右に今車

まると城とま一り城何車と

まんと孔子車とと為て地より三

は上孔子作といふ少や舞里大の美

法なり人の意れ何らよ迷ゆ成

孔子作に似たりト云之孔子意ノ心

述よりハアラスル

柳下惠ウチノ盗跖ト孔子ノの事

盗跖ト孔子ノの事カしたる

——未詳

同孔子ノ事ノ亦南スルヤ一答大畧孔子

ノ事ノ從テル禮授テシ

秘  
花ノ説ニ一同矣法ヲ大ねも意ノ為

ハめは禮ト孔子ノの人の事ニ

と之俗ニ終ノのけつトまづトなす

ウハ〜説ク有用

氣ハ〜ハ多クの山比ノの事ヲハ

伴リ〜入ル人ノ事トヤ

今葉孔子ノの事トハ

昔ハ〜世ノの事トハ

〜孔子ノの事トハ

〜孔子ノの事トハ

〜孔子ノの事トハ

〜孔子ノの事トハ

あつゆふといふ家へく〜れまよ  
ま〜みみむ文あつたにまよハされ  
舞〜流抄の流〜れ河や〜り  
河海乃流ハお遠なるまよわ

中〜〜れ〜の  
お不〜い〜も〜ん〜く〜の〜わ  
あれ〜い〜ま〜い〜〜と〜〜

柏本のよ〜く〜い〜兄弟才なる家  
〜と〜の〜い〜い〜  
河ま〜と〜い〜人〜ぬ〜是ハ源氏  
の〜知〜

<sup>柏本</sup> 柏りよ〜と〜若ハ〜〜れ〜ま〜り  
岩り家ありまよ〜〜〜

何 義ハ河〜ハ〜  
何 柏本右志の猪 午時中ね乃のま〜の悔〜  
号岩編中ねト〜

うさほまいゆありーうそがたなり  
或 清流うがまゐみかハカシ

み極く

回 風流めれみみく

松云勝月車の子泣のよとほ

りうをきててくせうそひり

とまきり

くーう物もこまあし語ん

秘 玉うれ答給あゑ

柏本れえされはこくし

あま

あをりーいーあうよとて

秘 女乃とて

玉うれ物その語ああまた

とりて源のといひ給く

人さいゆとあ

あぬあうしのらひして

柳余なりこのあまらうもの

やれしハ世のひう家かしくは  
男のうたてハあるありの事  
女の月名もくさ申せし

これこそきりぬ

秘源の我あそこ

何れなきげなきしめしうたてし

あり

秘ま時ハ吾もよあそ

げ源の氣力よきりしあそ

のまははれあくは成りたて

あそよし我情うしめし

そふりまきさくりおひよは

しれよしあそ

こハあそしめしあそ

きりあそ

是ハ教あしぬ女なりしを

あそりあそしめしあそ

や式并た云々秘あしぬ人のあそ

此論

あつらひし人もあやしくあつていく  
おのちも

よきことありてありうたれたよ  
よききき

は一倍の男の方よりたふよ  
此きて又とこ摺るやとより  
のちよ心秘く何ひ  
ゆふよそ男中く心さら  
まきよしりも何り又たのち

秘

よましつらも女乃きあゆみ  
しつらもあはれに  
あつらひし人もあやしくあつていく  
おのちも  
自然のちを成せよと  
はこれしつらくはくえ  
ゆふもあはれに  
よきことありてありうたれたよ



私取鳥の義經へさる

公を河の舟にさる

河をさる舟に舟を柳をさる舟に

舟をさる舟に舟を柳をさる舟に

秘 舟をさる舟に舟を柳をさる舟に

舟をさる舟に舟を柳をさる舟に

舟をさる舟に舟を柳をさる舟に

何 舟をさる舟に舟を柳をさる舟に

私に取鳥の義經へさる

舟をさる舟に舟を柳をさる舟に

舟をさる舟に舟を柳をさる舟に

舟をさる舟に舟を柳をさる舟に

舟をさる舟に舟を柳をさる舟に

舟をさる舟に舟を柳をさる舟に

舟をさる舟に舟を柳をさる舟に

舟をさる舟に舟を柳をさる舟に

女れふあくるかぬよせ  
祇なる紙さり事ふ心とせ  
世人はほの紙ありぬ心紙  
何ひいらいぬふう海と批判  
まろ用し

まろ女乃抱つて  
是よりおまの乃女の心ら紙  
のまふし

うれつり何らきうり

<sup>秘</sup>しそへハる紙乃森となる  
あれ心の上白紙さく紙のま

人社

宮方お

<sup>秘</sup>きりつ紙し紙は二心

おふれ

<sup>秘</sup>移んしりる心 昇日

何中り抱りてぬむらんも  
さぬよあうり

い二人うしハあずり情うく  
かー移しき事しかりぬし人  
うふれんし此ありは海した  
うありハ玉うしれをしれが  
るしあ海しいかしし  
してハおんせぬぬ  
らうしるし

何切方し

移人しうし小若方しうし人のしりし海

とハ玉うしれ系別しるし

と也

君ハしらしむして

玉うしるし

かしこしかしるし

なしこしハおしてしお梅しもし

これしりし乃し花しのし父

卯し花しるし

月しるしハ卯し花しるしのし父し

又ハ柳よおれ

さハ心とわふらひ多りしおれり

辛

右とハ玉うらと田舎ひらり

よみしし源氏ハうれ始ハの年

秘

ひらりとる路し上程の夜  
辛氣り日し今ハ又る成し

あふこトア

私の中ひととるしよと又

うらうらとるはうれうれと

田舎ひらりしとるしよと

あハありよおれとらに

玉うらとれ始ハ何とあハおれとら

るりさぬのこつりしとや

ハくこの柳新用さしとるしよと

うらハ一とハあてとるしよと

けさうあしむえとるしよと

をらひ用さしとるしよと

いしあぬとるしよと

何

あゝおろしくして多くはむいせゆゑ  
さるははれおれさるひめけつに  
か

花

あゝぬおろしくは不足なりおれ  
せ何海の鏡おれつれ

あゝ人ともれさん

秘

うを物よらんふらんはから押  
さ

おやとてえんよはさき物くわく

おろしきれあり

花

玉好男君ハサニ源氏サるは十はサレ  
ゆ子に何さるあよしくなり右道う心

しおおれしくハ源氏君れれめ我

けまありとさるさるふく

秘

源と玉うつとハ年ハ十三ちらひ也  
右をさる公よハ源の抱ふありて

く此親よハちと少けきこと右道

うおろしく

所々人にのちせうとこ

秘

是ハちとく源氏よここ之ノ細  
右とらノ細源ノちり源ノ外  
又ハちりもツレぬとこ

所々ハちりちとりいし

所々ハちりちとりいし

所々ハちりハちりいし

秘

源ノちりハちりいし  
所々ハちりハちりいし

所々ハちりいし

所々ハちりいし

所々ハちりいし

所々ハちりいし

所々ハちりいし

所々ハちりいし

秘

源氏ノ細ハちりいし

所々ハちりいし

秘

所々ハちりいし

いとこいさくあり

はらう風流あやうたうらうと

れはまう移くうて

是よりハちとウ刻之書のはきり

移くとしていよらうとく

度くせしうみとハ使ウきうねく

とめていよらうとく

内乃おら後のオの

柏子也

河海よりハ中納のきれい

アリテ住ニハ文とらうといふて

の略しうらうと

けさうぬらうと

見子 或平みり

玉らうれめつふホ女房の色

花鳥ニ

美云 秘花ニ一同但ま

いさうあふりれ 原の詞

くせ申く又うらう入る

河家まきまきと

ととと

<sup>秘</sup>人の族姓と

源乃栢本なるもの

いしあつりま

ちちりも栢本うしれおやしよ

なつあ人おやうし

河家仲し

<sup>秘</sup>実法

栢本の氏族栢保の家うた

人しれまけりし源のがあ

まふ初

をれつちりあ

栢本れ中ねれまてい

ともまぬこ

えあまこ

心

<sup>昇</sup>玉ろしれお





世のあはれすもひとまひく知  
りてあまはれぬ親のあはれ  
いしましうらひ結り人すう  
あらしうらひ結り人すう

秘

父あはれぬこは後母のあはれ  
れ世乃人のあはれこふ

秘

玉うらのあまよむに後母のあはれ  
後母のあまよむに世の人と  
氏者のあまよむ

非

あらしうらひの室よりあはれ

非

結りてあはれ

結りてあはれぬこは世の人と

あらしうらひの室よりあはれ

あらしうらひの室よりあはれ

あらしうらひの室よりあはれ

秘

あらしうらひの室よりあはれ

あらしうらひの室よりあはれ

あらしうらひの室よりあはれ

後へくればけえ海成海成といひ  
まゝに世をまわらう

めしうらふらけなりぬの行  
まろり人

<sup>は</sup>思人なるといふ者 <sup>は</sup>人

大和物語これさい 東中ゆめ  
じとあり 若くは

ぬいりうらみの伊勢ちよとていふこと

うらまろりぬりくたこれうら

とめさいてありけいふ人といふは

せうよのさうまいといふなりひく

とむらうあ人ありきう 精舎日記

小野文れう け物語

友れましものさうあり

石人 秘 年しげゆ

同 めしうらふらけなりぬの行

ゆらうらうら

ま 秘 りうらうら

是 りいかりうらうらのおお

能くてもあひしらふ人のあつらひ  
よもてきつらても何れあぬし  
さへさうして福いままゝまゝ世は  
人の我もえさうとほわふハ余  
あられぬくさうすくむらうれ清  
心いしやうく清氏もさうくとさ  
活りぬぬく  
秘  
てうけおあしれ下成もさうと  
よさうてあさうとさう活りきる

又ふらうり活しとく

うれはなつひあんなあつらひ

けあさうとおひ人のあつらひ  
らうらさうらうら女をさうら  
わら活んハふ別の入つたせむ  
さかつらひとらふ

大ねらうくあつらひのいさう活しと  
さう活いとひとらふ

花  
舞黒たおの小方ハ世の上れ姉者

まい本様姫君の母にちねれ人よ  
くれまこころとて玉うらとさ  
くまこころかこ

并

玉うらとれ事と源氏の心よ音  
定こころよこ大ね事ハ侍命  
吾勿祈りうとさうりみとさうり  
うれいとこ

日

大ねハ本祈とまよめとて玉うら  
ふうらうけあもさうりうらとこ

秘 因

そとれ調とてよ家公さうら  
平山黒合点

け舞上小方ハ上上ト別殿の姉こ  
此小方ハちと物くらあさい  
多れといひひそとよけ玉うら  
とりしあもふとけ小方といひハ  
上上れ姉さうり親小源乃西方よ  
りしとさうらひひと

ゆとあに事うれハ





あふしおがいて

原のひ

さしハ世のふるいのなりおとせ

ねの親とおやせりしおふま

く後仕ハあ乃親立東院ハ後のおき

ね乃おやの事 世俗よまへ

私世れおとひとハ世俗の談か

としう

と海うらぬ心しれが

らしおまうことうもわたり

おのりまよれ事ハまハゆきし

う代あししきして業さう

ちてハんし結りあ

きしきあふしハたしませ話と

是ハらしぬまよふハ世ハる関し

玉うのんしぬまうり

ひしぬ

さし海うらぬあうれて

くあししししあしあけのま



良

源れ公よきまゝに  
うら打しきく  
あまこころも  
く

ませ乃らよ  
これのうら  
玉うくれ  
乃うらふなる  
成まよ  
おりのうら  
く

秘苑

とつま  
のうら  
て源氏  
く

おの  
と  
うら  
て源の  
く

弁  
とく〜礼あふ心く

と玉盤芳

私玉う〜の礼あふ心

いまゆ〜よいらねん〜りりわつ竹のむい

〜めき人福銭ハるもん

朝忠集

いくり〜も何〜物う〜わつ竹の

おひうりりきりまさ〜りれ

おひり〜めき人〜ハ実親と〜

玉う〜れあよハゆり〜れ親の

よさうあ〜てらあふ心

秘

玉う〜ハゆり〜実父ふ〜りあ

て実の根き〜あ〜ハ中〜

〜ゆ〜ま〜よ〜

私師の身ハゆりねみふ〜り

定りねん〜とよあ〜り〜

名実父の〜〜ゆ〜ハとせわ

きしせあゆ銭実父〜らた

のむり〜に〜りあ〜りあ〜り親

ふゆ〜ハ世の〜とひのなれ〜

まじかへ原乃の給ひつ終ん  
こゝへ原と実父とさふらへ

中くふらうゆめ

<sup>れ</sup>まじの親ふ今さうしつ終  
やうん事ハ中くさうさや  
あゝんよの給ひりけいりあを  
あつ終つとハ終つとさふ事  
あふらへ又原氏ま終つあ  
あつらやう終り人すんさく

くハの終く下れ初りいと何れ  
とおかきりとい原氏乃何ん  
くさうさふつきてもあつら  
かきぬし

さうハ心乃らハあとおかきり  
<sup>れ</sup>まじの親ふ今さうしつ終  
あつらやう終り人すんさく  
あつらやう終り人すんさく  
あつらやう終り人すんさく

ししうくさうまみく

秘

花名ニアリ

けおしりゆんく

源氏の意切よおつと家とまう  
れんしりまみ

あといこい

実又しりよも内太臣の事  
なましりぬ又うまはこれ  
をあしりたがとや

じう地さりまも

辛

任者地流ありしよまおんり

りし成るるあり 秘日国日

心しきしきまきんま  
うらうあな

まうの親よまきん

まかすしあ

まうせしん

じりく

夏はつらつら

秘原

うしろ

秘原

玉ころもれらるる

て原の紫よ

なひうら

玉ころのなとが

いふ(の)ハ

はふも

夕島とハあ

ふさ

うら

これ若ハ

きら

おと

うら

実

さゆ

かめ

秘

原のむらうらうらあめゆく

多しおちと海しんねん

秘

はる上の心よ原乃多しあつま

きしちりあふく

抱乃心えけくくあめし結めらうら

なくししうらしけいめし

秘

是ハ紫上の初くむらうられまはる氏

とくしあしあや日してはたあつらと

心均結しきうらうらうらうらあめし

秘

花多しアツ

は紫朝玉うらうらの着物乃心えりあ

おつまれハ公つらひハあつらんはれと

もうらうらうらうらあめ結多しハ

原のあめりあめむし

秘

うらうらうらうらあめあは

因

はつたのきくあてははくし  
し

ふしきりのきくわ

源氏のきく昔れはりふさひ  
うきくしてぬのきく人あき  
うぬりきく家へきく  
源の親くあげすれりあねの  
あよぬれき

いとやと寝ふても又きのひき

又紫上れ親く源氏まね昔わま

しむむきあの極よたき  
ゆりぬれと又きもあきり  
一政ちりあきよのま

秘  
花鳥のり

あれんくおん

心とまにひさしサトキ利根たる心  
はよよ成心とれとおぬとまり

いとみしらくも

玉うしそまのうの方れ心あそ  
ん知結いしてん

井  
はよよれん

私物の心えはくま玉うし  
海乃ぬ色心うしれあつハ身知  
海一まうのこいなま

玉うしれん  
あつハ身知  
海乃ぬ色心  
うしれあつ

しそまうにうはくあやさば  
よこのめしと云ん

まうし

はよよのまうにさうり結成

まうし

心れうらに人のまうし

源の心中やまよ上るしは推意と  
まうし

まうし



経行

玉ろくろく細く涼しおはらるる  
ころかえそころくす

緑槐法合所境平ノ心

ころく根拍まろく西白く時節な

為一ノ是ハ涼のつひよたはせ

方とせむ

和<sup>ワ</sup>して又三ろく

<sup>秘</sup>紫天ろく白せ

は

四月、天氣和<sup>ワ</sup>且清<sup>キヨクシ</sup>緑槐法合所境平  
向氏文集十九

まろこれひめ若の

<sup>秘</sup>玉ろくろく

若云中りりぬいの若れ清ふかや

うさ、西の村乃若若くき

辛アリ

てるろひろくして

玉ろくろく乃さほし

なろやろろきりひの

<sup>は</sup>如如 又柔

うしひしおちい〜ゆまも

<sup>秘</sup>夕糸の上よ似たり

思ひこ〜ては〜似たりあり

いよ〜好色の心れ思ひこ〜

みそめ〜そ〜つ〜

玉〜〜初〜時〜

似〜〜も〜り〜

原の初〜

中将のゆ〜に〜きゆれ

<sup>何</sup>

夕露れ中ねハ奏上に似とむろ

られまハ夕露よハ似とゑと傳氏

のい〜と〜

<sup>秘</sup>

夕露ハ奏上ハ一向似終み程よ

今〜子ねハ母よハ似ねね〜

ふれハ今〜も〜

似〜ひ〜り〜せ

極乃あふ紙まよさ〜りて

よ〜り〜てあ〜し〜

原  
予は花のありし神のまをまきし  
うはまき家ももとおしぬぬれ

玉うつくれく夕鳥よに似くも  
多り紙梅と神の音よたとふよ  
はとくくさそりしれ海のたれや  
よとくくしりしるく

夕鳥のるあはされくけむら  
よとくまりみれはくくまらた  
とおのくれぬし

或是花さ月まら花梅のけむら  
の心あり青れ人の神れきし  
公の然れ私トアリ  
昇花鳥なこけき

よとく色れ心ふるまて  
これらり海氏の月夕鳥よれ事と  
よとくれとせむし  
くして見えまらるハ  
それきくならり玉うつくれは

女もうもさるひ終つたりつる哉  
玉れ心くこれがしましてちるやふ  
あつても始や

お月がさうさ飯

神の紙をよみふくくはあらたの  
いふくくわくうりもいそまし

あは花はさく花さくそれ葉さく  
枝よおねとけりうきいのみ  
さ月まり花板の書紙けり

ひくれ人の袖のそせと家

和泉或る日記云彈正のんこく  
ゆきな袖のみこ梅とつりてい  
くくろくといひてゆりゆま  
かりあうにうきよふりうか  
さすさかしくやおれそやよ  
さうし

え  
玉うくの若の秋もくわ  
やうよくもく人の顔はは氏

君のふかき心なむおもひよ  
ゆよあらしきこころのまじ  
<sup>秘</sup>我とハタ鳥上ふはしるまに  
もほ氏ゆよこころのなかりき  
りしと

中くさる物おもひひら  
源の心か  
多ふはすこしおもひま  
ほひま  
ほひま

悲いこころして  
なみりか  
<sup>秘</sup>源の詞  
いさくもあし  
あし

因  
予一人のえんちめおさうに白紙  
うりて悲ひてあひおしひま  
しひひちをさるん

あきこいさうさしはせぬさ  
又阿まういさうしはせぬ

秘  
保氏まれば程とてもおはしん  
あうそまうめよれあひさひ  
ねるし又一かむしれま  
海まい

これしつまはさいぬみくく

秘  
又ちおさうしり  
因  
宮ちおさうしに保氏おして  
あましうしうしをさ

いさうしぬおあま人のせりり  
こいかるんき

秘  
玉うしれ君の心かぬ事紙の  
あうあ  
源りうしうのねま

う 河ぬ〜

井 源氏乃心さ〜のあつさいやうな家

あ〜

秘

源か〜ふぢら〜とちり〜

〜人ハおぢ〜ぬ物然と源乃

自稱るり

私井秘〜あ義を能〜

あれ〜と〜あつさ〜

と花多たむら〜れ公ゆ〜

とた〜ふ〜い〜あや〜

乃ら〜の〜事〜く〜れぬを

源の〜い〜ひ〜あ〜たお〜

よおぢ〜お〜ら〜や〜たお

な〜も源れ志乃ぬれお柳よ

何〜と〜た〜い〜むら〜と

りま〜して〜も〜い〜ら〜り

せ〜と〜よ〜と源多らのぬ〜

たぢりぬ〜〜ぬ又乃心れ

まらまらめださう  
はあやんといはきりては評して  
うきわらうらうらうらうら  
るるのやうなりて又ハ進公な  
くきりきハ舞月れし出  
まらうらうらうらうら  
のくまはくくみきうら公  
進公くまみくうくみく  
めん

雨ハ降ると風乃行はるがよし

は

風生竹夜窓同月照松時甚

上り

秘 和且情ノ末句こ

くはまやくれぬもさうり

あうらさうりくきくさう

ぬこ

ま月ういかしうらうらものま  
源氏末のあまれさうりぬらう



とろくひきす〜

女若小〜  
秘日

初着单衣与伴短秘は句し文集同

詩の中乃句し

集文集十九七言十二句贈駕部 吳 廓

中七兄 時早夏朝席田奇 桂如 偶影此外

四月天氣和且清綠陰槐合沙洗弄外

驛善馬銜鏡穩初着单衣与伴輕

退朝下直少徒侶屏舍閉門無送迎

風生竹夜窓同月照松時臺上行

春酒吟章之數盡晚琴用弄十餘

色幽懷靜境何人別唯有南宮者

駕兄

いと〜

秘玉〜  
秘花鳥〜

ま〜

と海にのみくられらば

非

上の親は海にすゝめあつた

海にすゝめあつた

心まゝにうらうらうと

あふく

秘

昔よはうらうらうと

さやにうらうらうと

いてうらうらうと

うらうらうと

うらうらうと

うらうらうと

うらうらうと

うらうらうと

うらうらうと

うらうらうと

うらうらうと

うらうらうと

うらうらうと

同

うう おがとて我

秘 源の詞

まぬ人さたせのこころを

秘 女のまゝひびきしほまじりぬ

人よもなひくはまひひたうと

は年月むらまゝくさよを

秘 とゆりし流るるは源氏の物語

秘 花鳥のうり

なふのうとほくさき

秘 源氏物語

志のふりしあまうがて

ぬまこは心よきひあはれと

いよこ又アと上のむらねと

よあまうとしよえある

きくむらねをうて

ちやうれぬゆらねくを

秘 ぬらぬ

ゆらういあまのけいよ

何 ツリナリ 不喜 日中絶 さらりらるるや

心 卒 本日

おしひらとみほく

源のいてあよとの視し

よりれ人ハくかきく

黄ハ山行上  
アリ  
打紙

うらりうらこわ

後 うこわらと倒や

あさき津瀬よ

うらりうらと名よあよさられむな

まはうこひもまぬ色のぬま

日 玉りうらあまはあ新たは海

のうこひもまをりか

れこもまぬくひは金とあまの玉

ろくろまよ人乃こらハとれ

多りもれまこひあつ物成とあり

川 後 うらりなうさるふあ

つらき心

ひらきよきよきよきよきよ

夕空上の事とて思ふ

これらも何れぬさきして

玉ころの神

いとしさうり人こそまろぬ心

又原のれきも何なり

いあはきこくとしておひぬ

男くユメくせ

え 叶あし人よあや

しきいんきあひさ

秘 花鳥に

世中とまり居る中よ

しらよられさう人のありさ

舟 大さの世人のな

いまこまり居る

秘 大さの世れさうい男

給ぬさういさしても

ふあしや

私をうらむるは世にあらざらん  
人ごまのうらむるは男女の  
あしひと人のうらむるは  
こゝろあはれなり

おれよりきらうらむるは  
—うらむる

実もあはれけよ何うの事  
もきりけよとむねうらむる

あつしむるはうらむる

お心地をうらむる

<sup>氣</sup>むうつらお心地をうらむる

しれさうらむる

私をうらむるはうらむる

うらむるはうらむる

このうらむる

源乃をうらむるはうらむる

のうらむる

兵<sup>秘</sup>りあしむ

玉<sup>秘</sup>うづのめれとこし

れおにうキトツと

身うやうりきま

れんうんし

いとおもるふん公しり

むうづのぬし

又乃あしこぬかこさあり

源りり又こそまうりあり

去りささくれ

きくひさり

秘 是りり又のぬし

源りり又のぬし  
又戦うしハ疑ちる  
かよよこ白紙  
ささくさる成りり  
すくうたとり

原 うらひささく福もぬお成りりり

し何りふかよむとわたりん

何<sup>何坊物流</sup>くうりり福もぬお成りりり

人乃むとらんあしと

秘 福もぬの孝福とわりのぬし

うきうき一ふり在中ねる妹にうきを  
届き家来と平一あふせり  
あふかよしとせりあふかよ  
のまれまやこまに才一白あ  
ときてとひてせとぬみ  
あしうくゆる

秘

実得もえとの心く

たさねくしう押し始りし

あふりあふ西関といはせといふ

あふりあふ西関といはせといふ

秘

えいりまの又の親入のあ

はふよけくさく

因

人の不妻せんと一巻せりかた

あふりあふ西関といはせといふ

源のおかともく

あふりあふ西関といはせといふ

因

ちししとせいふあふのいふ

あふりあふ西関といはせといふ



うきであふれなうな

草子の比へ海のむらうくよゆき

ふゆ然つきまよとこり

色ふいてまひてりちいおれこの松の

とねもりせうらうらう

<sup>の</sup> 赤ひまをぬ大田れまのたうと

又よいてやあんといふ海

<sup>え</sup> 大田の松の奇ハ六板ふと又朝鑑集

ふと重う集よもあ枝奇の心を

又少やあまうと河まうよ

ふみとけ物鏡うんや色ふ出

うまいた田の松のいおとせ

あやうたういとつり西うん

あうねうふ

<sup>秘</sup> 花鳥の流を面白

いよ下を心らして

玉うくのくまうくさ

あしれ心まううあうと



う海川あやとひりきり

<sup>秘</sup>玉うくれきくよありみいま

あか

まを将うまひ

又うしとまらり入さ現あ

さうれあをううと成原のそ

のうまふあ

これ岩りら中おまおくれあ

<sup>秘</sup>前ううのあさうとあ伴

さいさうさなめんなと海原

うれとけ中おるまハ地あ

て

海とれすら銭ハ

実ハ玉うくと兄弟い

え海原の西子と人うりあ

ううにさあうのあをいひ

ハされけ人くよハあひ

てとく

うさりよ

秘

一方むいせ

れけつあしめ

黄ニ此トシリニ又本付紙アリ

箋云

孫抄よりんぬ詞の乃きりあり  
仍列き

あゝぬあるくの次よあり

はあ

中ねの若乃れとらハ  
け又トカト云へキリ倒ノ田ニヌル

并

むい物さうりと云後ニヨリ  
ういりあさくのいせ

源の心さうりさく柳さうりハあり

— 174

— 175

— 176

— 177

— 178

— 179

— 180

— 181

— 182



